電波伝搬実験の件

JJ1SXA/池

初めて参加する局はもちろん、参加経験者もですが、電波伝搬実験の趣旨・内容をよく理解していただき、参加していただきたいと思います。

電波伝搬実験を始めた時の経緯は、240 グループがスタートし数年後メンバーも増え、2 エリア、3 エリアにも東海地方 240 グループ、関西地方 240 グループも立ち上がり盛り上がりました、そんな時、5/8λ モービルホイップをつける局も増え、モービル局からどのくらいの距離を通信できるのだろうか？ということで、モービル局同士の伝搬実験をやりましょうとなって、伝搬実験がスタートしたのです。

その後、モービルホイップで無く、八木アンテナ等で参加する局も増えたのですが、やはり、ここは原点に返り、あくまでもモービルで、装着しているモービルホイップでの実験をしようとなったのです。

移動しても、モービルに装着していないアンテナ（モービルホイップ含む）の実験、固定局からの参加は「本番終了後の時間に」を守っていただきたいと思います、最近なし崩しに原則を逸脱してきているようです、うるさいことを言うようですが、規則では無いが、240 は申し合わせ事項を守り、勝手なことをしないということで、永続きしてきていると思います、この原則は守り続けるべきと思います。

HP の「電波伝搬実験」のページを熟読いただければ、上記のことが良くわかると思います、時間配分等その他については、JA1WOB 局が書いたものです。

抜萃で、「目　的」、「方　法」の項には次のようになっています。

目　的

モービルホイップアンテナによる、50MHzSSB モードの電波伝播状況を把握する事を主眼とする

1、センター局のコントロールによって、各地に移動したモービル局がチェックインする

2、センター局の指示により、各地に移動したモービル局が、指名呼出方式で QSO する

4、先順位の原則は、…

固定局の参加は、ワッチのみで受信レポート提出（QSO への参加は、原則モービル局のみとします）

5、指定局でもアンテナを交換してのレポート交換は、実験終了後の時間（10:40 以降）にして下さい

また、ページ最後の方も見て下さい、特に「参考」を良く御覧ください、一部抜粋を記します

その他…

参考

50MHz の電波伝搬（TWO-FORTY 誌第 73 号・2009 年 3 月発行の記事です）

実施要綱の基本

1、モービルに設置された、リグ及びモービルホイップアンテナを使用し、出力は、50W とする（10 W や 20 W 等の局はその旨申告、有資格者で 50W になっていない局は、簡単ですので至急変更届けをしてください、あくまでも伝搬実験当日現在の免許出力厳守です

2、最長遠距離交信達成局（2 局）表彰の交信記録（他の局の記録も同様）は、通常グランドウエーブと言われる伝播での交信記録とする。
当然、地表波伝搬（回折波伝搬、屈折波伝搬）はグランドウエーブに含めるが、対流圏伝搬（トロッポ、ダクト）、電離層伝搬（Es 伝搬、F2 層伝搬）や電離層散乱伝搬（スキャッター）等の特殊伝播での交信は参考記録とする。
参考記録にするかどうかの判定は、協議の上実行委員長が最終決定する。

ARRL の「Mobile DXCC Award」において定める、移動局とモービル運用の定義

(1) 移動局とは自局に免許されている移動する自動車に常設した送信装置やアンテナを使用した運用であること

(2)商用電源や発電機など移動中に運用できない外部電源の使用は認められません

(3)アンテナは自動車が移動中にも使用できるよう、車に常設されたもの（モービルホイップ等）や、送信機と一体化されたもの（ホイップアンテナ等）であること
八木アンテナなどのビームアンテナを使用した運用は「止まっている時にしか運用できない」ので「モービル運用」ではなく「ポータブル運用」になります

要約すると

センター局の指示により、各地に移動した「モービル局」（自動車・バイクに取付け状態で自走可の ANT 装着車）が、指名呼出方式で QSO する

実験本番の QSO への参加は、原則モービル局のみとする

モービル局でもアンテナを交換しての実験・レポート交換は実験終了後の時間帯で実施

実験終了後の時間帯は、固定局及びモービル局以外の移動局等の参加自由です